

2 経営発展支援による担い手の育成

1 対象

担い手事業対象農家20戸，重点農家，和泊町認定農業者連絡協議会，知名町認定農業者連絡協議会，与論町認定農業者連絡協議会，和泊町農業青年クラブ8人，知名町農業青年クラブ8人，与論町自営者クラブ17人，新規就農者，次世代人材投資資金受給者，花き若手女性農業者（沖永良部5人），畜産若手女性農業者（与論町9人）

2 課題を取り上げた理由

- (1) 担い手農家の高齢化，減少が進む中，経営の合理化や発展及びその円滑な継承に資する条件を整理し，家族農業経営の活性化を図るとともに，農業経営の法人化についても推進を図る必要がある。また，経営改善支援を行うために，経営管理能力の向上を図り，経営状況の実態把握や経営診断，計画作成支援を行う必要がある。
- (2) 将来における担い手を確保・育成するため，継続的に新規就農者や青年農業者，女性農業者への技術習得及び経営把握等の支援と課題解決能力の向上を図る必要がある。

3 活動内容

(1) 担い手農家の経営改善支援

ア 経営診断の実施と経営改善計画検討の実施

各町担当者や経営・技術担当で連携し，資金借入を希望する認定農業者や認定新規就農者に対し，計画検討を行い，5年後の目標設定及び今後の取組について支援を行った，また，決算書をもとにカウンセリングを行い，経営改善計画の作成支援を行い，問題点の抽出や改善方策の検討を行った。㊤

イ 経営管理能力向上支援

各町担い手協議会主催の定期的な複式簿記記帳研修会を通じて支援を行うとともに，簿記データを経営改善に生かす必要性について理解促進を図った。㊤

さらに，与論町では，定期的な研修会に加え，新規記帳者を対象に基礎研修を実施した。㊤

ウ 農業法人化設立支援

後継者のいるさとうきび法人化志向農家4戸を対象にかごしま農業経営相談所を活用し，税理士による個別相談会を開催した。㊤

大規模さとうきび農家2戸を対象にかごしま農業経営相談所を活用し，税理士による個別相談会を開催した。㊤

エ 家族経営協定締結支援

新規就農者研修，女性農業者研修や集団指導で啓発を行った。㊤

また，家族経営協定締結書作成支援を1戸に行った。㊤

(2) 若手農業者の経営管理能力の向上

ア 課題解決能力向上支援

沖永良部地区では，農業青年クラブ員を対象に課題設定検討会を開催し，プロジェクト活動の理解促進及び課題設定を支援した。また，プロジェクト活動実施者2人に対して，活動のアドバイスや発表支援を行った。さらに，青年農業士総合講座を農業大学校と連携して開催し，経営管理手法やリーダーに求められる資質等について学ぶ機会をつくり，青年農業士認定に向けた支援を行った。併せて，各町農業青年クラブが行う共同プロジェクト活動を支援した。㊤

与論町の，農業青年クラブでは定期的な勉強会（土壌診断結果の見方等）や共同プロジェクト活動を通じて資質向上を支援した。㊤

イ 新規就農者支援

新規就農者を対象に基本技術の習得を図る基礎講座（病虫害，畜産，農作業安全，土壌肥

料，農業経営，水利用）を開催し，13人（畜産6，さとうきび3，野菜3，花き1）に対して営農に関する基礎的な知識の習得を支援した。㊸

関係機関や指導農業士とともに新規就農者32人（和泊町4，知名町21，与論町7）の巡回指導を行い，その後のカウンセリングや経営シミュレーションにより短期・中期の活動計画や技術改善目標を設定した。㊹



新規就農者基礎講座



新規就農者巡回指導

(3) 女性農業者の能力向上支援

ア 技術・経営管理能力支援

和泊町の女性農業者組織（スマイル&フレッシュの会）に対し，若手会員5人の栽培管理技術向上や知識の習得を目的とした研修会を2回実施した。参加者は，1回目は全員，2回目が2人であった。㊺

与論町では若手女性農業者7人が前年度設定した畜舎の清掃や密飼いの改善等の課題に取り組んでおり，巡回で状況を聞き取った。また，新たに加わった2人の現状を巡回指導で把握した。11月には希望があった牛の熱中症や下痢症について，家畜診療所の獣医と畜産普及員が研修会を開催し，資質向上を図った。参加者は，9人中8人であった。㊻



スマイル&フレッシュの研修会

4 活動の成果

(1) 担い手農家の経営改善支援

ア 経営診断の実施と経営改善計画検討の実施

担い手農家を対象に経営分析(20戸)及び経営改善計画作成支援(11戸)を行った結果，目標設定や見直しが必要な点の整理ができ，経営改善に向けた取組につながった。㊼

イ 経営管理能力向上支援

新規就農者等10戸が新たに複式簿記記帳を開始し，経営管理能力向上に取り組む農家の増加につながった。㊽



経営改善カウンセリング



パソコン簿記研修会（知名町）



パソコン簿記基礎研修会（与論町）

ウ 農業法人化設立支援

2～3年後を目標に法人設立を目指したいとの声も聞かれるなど、法人化への意向が高まってきた。㊸

法人化のメリットやデメリットに係る情報提供、各経営体の法人化に向けた課題抽出等を行った結果、法人化による経営改善への理解が深まった。㊹



個別相談会（沖永良部会場）



個別相談会（与論会場）

エ 家族経営協定締結支援

担い手協議会、農業委員会と連携し、1戸の農家が経営主夫婦間の締結に至った。㊺

(2) 若手農業者の経営能力向上

ア 課題解決能力向上支援

個人プロジェクト活動を2人、共同プロジェクト活動を各町農業青年クラブがとりまとめ、地区青年農業者会議で発表した。また、2人が将来の営農目標について意見発表した。さらに、個人プロジェクト活動に取り組んだ農業者の内、1人が青年農業士に認定された。㊻

共同プロジェクト活動では、和泊町農業青年クラブがパイナップル試験栽培（3年目）に取り組む、青果物販売・加工品試作を行った。7月の販売会ではアンケートを実施し、地元消費者から高評価を得られ、新たな夏の換金作物として可能性を見いだせた。令和3年からは新たに地域の先進農家を訪問、学習する活動をスタートし、現クラブ員及び新規就農者に役立つような、地域の優良農家事例を集めた情報誌の作成に取り組んだ。

知名町農業青年クラブは、パッションフルーツ栽培で新たに自家育苗やマルハナバチ受粉、出荷箱の作成等に取り組んだ。想定と異なる結果もあったが、チャレンジすることの大切さを学ぶとともに、クラブ活動の活性化につながった。㊼

与論町自営者クラブは新たなチャレンジとして、「養蜂」に取り組んだ。島内2か所に巣箱を設置し、現地検討会（5回）を重ねつつ、島内外の養蜂業者等の研修（2回）を実施し、与論島の新たな特産物の創出を図った。その結果、与論島での養蜂に成功し、新たな地域特産物「蜂蜜」を創出できたことで、コロナ禍で停滞気味であったクラブ員に連帯感が生まれた。㊽



個人プロ発表 山本氏



和泊4HCのパイナップル



知名4HCのパッションフルーツ



与論島産「百花蜜」の創出

イ 新規就農者支援

研修会や部門別の個別支援により、経営安定に向けた支援を実施することができた。
また、担当者会や新規就農者の状況調査を関係機関連携のもとに実施することができた。㊦
新規就農者カウンセリングや指導農業士等を含めた定期的な巡回指導により、新規就農者支援体制が充実した。㊦

(3) 女性農業者の能力向上支援

ア 技術・経営管理能力向上支援

研修会後にアンケートを実施し、理解度及び次回研修会の要望を把握して活動支援を行った。若手会員の中には、「出荷作業の技術習得につながった」、「取り組みたい課題が見つかった」という声があり、女性農業者資質向上につながった。㊦

与論町では対象者7人のうち3人が前年設定した目標を達成した。次年度は目標を達成した3人と新たに対象となった2人は新たな課題を設定し、9人中2人以上が目標を達成できるよう支援する。㊦

5 今後の課題

- (1) 経営改善意欲のある担い手への継続した技術・経営改善支援，法人化支援
- (2) 若手農業者の課題解決能力向上及び新規就農者支援
- (3) 女性農業者の育成・支援

6 担当した普及職員（○印はチーフ）

○原口和幸，當直樹，田中慶，西裕之，野崎聡，中渡瀬久成，本山美月